

スタッフコラム：『挑戦なくして、チャンス無し！』

みなさんこんにちは。私たちはJCHO湯布院病院のランニングチームJCHO.t（ジェイコット）です。平成28年4月に職員の有志でチームを立ち上げ、リハ科職員、MSW、看護師、治療体操訓練士、事務職員などさまざまな職種の職員が活動しています。チーム結成当初は、熊本地震で疲弊した職員間の士気高揚を目的に、そして当院や湯布院町が元気だとアピールする使命を感じながら、大分県内外で開催されるリレーマラソンや各種マラソン大会へ参加してきました。現在もメンバーそれぞれが自己申告制（本当かどうかは本人次第）で走力向上に努めています。

JCHO.tではF1ドライバー佐藤琢磨氏の名言「挑戦なくして、チャンス無し！！」をモットーに、チームで力を合わせリレーマラソンでサブスリー（フルマラソンを3時間以内に完走すること）を目標に頑張っています。多職種が一つのチームで目標を持って活動する事で、仕事以外でのコミュニ

ケーションの機会が増え、お互いの立場や状況を理解し合えるようになりました。

もちろん走った後にチームで飲むビールは格別です。マラソンで襷を繋ぐように、多職種が手を取り合い患者様・ご家族、地域の皆様への支援に繋がっていきたいと思います。どこかの大会でお会いした際には、是非応援をお願いします。

看護部：秋吉和恵



天空RUN！第5回 別府リレーマラソン in APU (2017. 5/28)

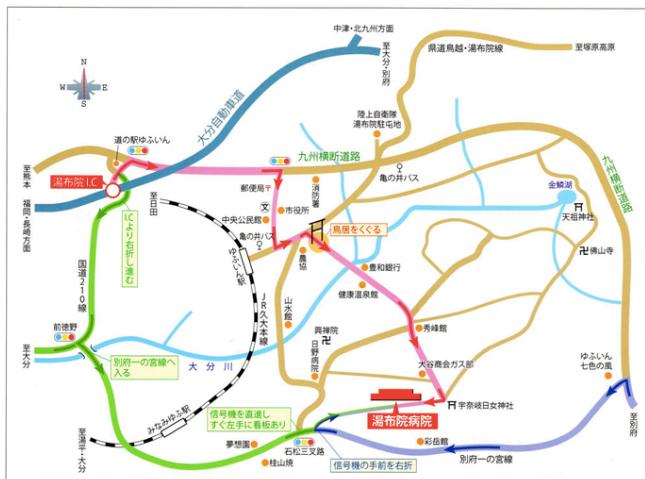
独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO)

湯布院病院

大分県リハビリテーション支援センター

〒879-5193
TEL:0977-84-3171 (代)
FAX:0977-84-3969
URL <http://yufuin.jcho.go.jp>

- | | |
|---------------------|---------------------|
| <診療科目> | <専門外来> |
| 内科 | リウマチ・膠原病外来 |
| 整形外科 | 心療内科外来 |
| 循環器内科 | 禁煙外来 |
| リハビリテーション科 | 嚥下外来 |
| 神経内科 | (通称：ごっくん外来) |
| 心療内科 | |



【病床機能】

一般病棟 (10:1入院基本料)	…	60床
地域包括ケア病棟	…	111床
回復期リハ病棟	…	60床
(回リハ入院料1、体制強化加算)		
緩和ケア病棟	…	12床
計		243床

～あとがき～
この度、病院広報誌として「ゆふいんだより」を再創刊することに致しました。新たな広報誌の名称を協議・検討する際に、広報委員の多くがこの名称を挙げたことがとても印象的でした。厚生年金時代の先輩たちが残した「ゆふいんだより」に何とか追いつけるように広報委員一同頑張っています。
広報委員：割石

■編集・発行責任者：院長 根橋良雄
■広報：広報委員会
平成29年5月1日発行

ゆふいんだより



五月晴れの由布岳

特集：歩行練習アシスト

トピックス①：回復期病棟での多職種合同研修

トピックス②：臨床指標 ～データで見る湯布院病院～

スタッフコラム：「挑戦なくして、チャンス無し！！」

特集①：歩行練習アシスト（ウェルウォーク）

湯布院病院は開院して50年余り、常に先進的な技術を導入しながらリハビリテーションを通じ地域医療に貢献してきました。平成27年7月から、世界的自動車メーカーであるトヨタ自動車が開発したリハビリテーション支援ロボット「**歩行練習アシスト**」（商品名：ウェルウォーク）を導入しています。

歩行練習アシストは脳卒中などによる下肢麻痺に対して従来のリハビリに比べて歩行訓練の効率を高めることを目標に開発されました。今までよりも短期間で歩行の改善ができるのではないかと、今までよりも歩行能力の限界を高めることができるのではないかとという仮説をもとに臨床的研究を実施しています。

現時点ではまだまだ症例数が少ないですが、従来の長下肢装具を使用した歩行練習との比較では、より短期間で歩行能力の再獲得が図れる可能性があると考えています。

リハビリテーション科：佐藤周平



<対象>
脳卒中などによる下肢麻痺のため、膝折れしてしまい自力での歩行が困難な方

- <「歩行練習アシスト」の特徴>**
- 麻痺側下肢にロボットを装着し、立脚期にはロボットが膝を支持。
 - タイミングに合わせて膝が曲がるとともに、脚の持ち上げや前方への振り出しをアシストも可能。
 - 前後のハーネスによりロボット本体の重さを解消し、使用者には負担をかけず自然な歩行で練習が可能。
 - 使用者はハーネスで安全確保される。
 - 練習はトレッドミル上で行い、歩行距離やスピードの調整が可能。
 - 足底の圧力センサーで荷重の状態を把握することが可能。
 - 前方モニター表示や音によるフィードバックを受けながら歩行練習が可能。

	【歩行練習アシスト(N=7)】		【従来のリハビリ(N=6)】	
	到達率	中央値	到達率	中央値
見守り歩行 (FIMW5)	100%	32.5日	71%	104日
限定的自立 (FIMW6)	67%	61日	29%	147日

トピックス①：回復期病棟での多職種合同研修

平成28年度の診療報酬改定ではリハビリテーションの質を求められる項目が増えました。その一つに「**目標設定支援・管理指導料**」が挙げられます。これは介護保険サービスへのスムーズな移行を目的とし新設されました。対象者は、脳血管疾患・運動器・廃用症候群の疾患別リハ料を算定する「**要介護・要支援者**」とされ、ICF（国際生活機能分類）の考え方に沿って目標設定等支援・管理シート作成し、リハビリテーションの実施状況や今後の目標を整理し、分かりやすく患者様・ご家族に説明する必要があります。

そのため当院でも改めてICFの考え方についての研修会を平成29年2月～3月にかけ計6回に渡り実施し回復期に勤務するスタッフと共有を行い、また架空症例をもとにワークショップ形式の研修会で事例検討を行い目標設定等支援・管理シートの作成の手順を多職種で協議する機会を設けました（現在2回目が終了）。

日々それぞれの職種が行っている患者様やご家族への関わりを共通言語をもとに整理する事で、お互いの微妙な捉え方のズレに気付く事ができ、改めて多職種チームで生活再構築を支える難しさと奥深さを実感しました。これからも多職種での研修会を重ね、実践の質の向上を図っていきます。



リハビリテーション科：吉村修一

トピックス②：臨床指標 ～データで見る湯布院病院～

H28年度に発生した熊本地震で当院も少なからず被害を受け、その復旧に追われる日々でした。1年経ちようやく落ち着いてきた事もあり、大変遅くなりましたが平成27・28年度の臨床指標をまとめました。その臨床指標を踏まえ当院の現状を整理すると、①当院はリハ専門病院として大分県内外の広範囲から患者紹介をいただいていたが、少しずつ近隣地域に絞られてきている事（**地域性**）、②しかし他の医療機関では対応できないような重症症例を積極的に受け入れている事（**重症化**）、③そしてその方々が改善している事（**改善率**）が見えてきました。質の高い回復期リハ病棟は以前と変わらず、また地域住民の方々や近隣の医療機関、介護事業所のから頼られるような一般病棟・地域包括ケア病棟の運営を心がけたいと考えています。

臨床指標についてはホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

地域連携室：割石高史

項目	平成27年度	平成28年度
① 患者数	入院:78,787人 外来:31,066人	入院:64,437人 外来:28,523人
② 平均在院日数(一般病床)	16.8日	15.6日
③ " (地域包括ケア病棟)	44.1日	43.1日
④ " (回復期リハ病棟)	112.8日	96.5日
⑤ " (緩和ケア病棟)	53.9日	80.9日
⑥ 病床稼働率	89.9%	74.3%
⑦ 救急車搬入の患者数	188件	207件
⑧ 職員数の推移	423人 (H28.4/1時点)	382人 (H29.4/1時点)
⑨ 職員のインフルエンザワクチン接種率	90.1%	89.0%
⑩ 職員の健康診断受診率	94.3%	90.6%
⑪ 褥瘡発生率	0.76%	0.91%



※臨床指標～平成27・28年度～ 湯布院病院ホームページより一部抜粋